



## 大阪部会(第2回)

日 時: 2007年8月26日(日)17:30~19:30

場 所: 阪急ターミナルスクエア 17

### 【内容要旨】

(1) 第2回目の部会は14名の参加者で開催された。まず前半は、河原和之先生(東大阪市教育センター)から、教育現場での実践例について三点の報告があった。

① 中学三年生を対象にした「経済」の授業からの報告では、「生活から概念へ」「興味から概念へ」を軸に進めてきた授業について説明があった。すなわち、身の回りの具体的なテーマを取り上げ、そこから経済の概念について学ぶ方法である。たとえば、「甲子園球場のビールの銘柄は?」という問い掛けから、独占や寡占についての概念を学ばせる方法である。しかし、具体的なテーマだけに終始すると生徒たちには一過性の事柄として後に何も残らないので、それに関連した概念を習得させる暗記的な授業も併せて行なう必要を強調された。

このような授業のメリットは、教師からの一方通行の教育ではなく、生徒たちとの双方向による話し合う場を与えることにある。それ以外に、たとえば帰宅後話題提供による家族との会話をもたらす副次効果も期待できる。

② 河原先生が最近出版された『日本経済学園指定教科書』(共著、日本経済新聞出版社)についての説明がなされた。本書の構成は、各章ごとに最初の導入として身近な生活の話や疑問を取り上げ、それに対する解説が続いている。河原先生が執筆された導入部分は中学生を念頭において、登場人物の会話形式による話題提供になっている。ところが、その話題に対する解説は出版社の意向もあって一般読者向けになっているので、教育現場で使うときには工夫を必要とする。

③ 東京で開かれた経済教育ネットワークのワークショップで「豆腐についての授業」の紹介があったが、それに啓発されてクイズ形式による「あなたはどんな豆腐を買いますか?」を作成された。豆腐5種類の商品ラベルを示して、味噌汁用や冷奴用に食べる条件に合った商品を一定の予算内で選択させ、合計点数を競わせるゲーム感覚の教材である。この教材の狙いは、買い物に際して、商品の内容表示の情報をしっかり調べる自己責任の問題と企業の製造責任などについて学ばせることを目的としている。今まで一度も現場で実践したことがないため(近々、名古屋で実践する予定)、いろいろな意見を取り上げて修正していきたいとのことだった。

(2) 後半は、山本雅康先生(奈良学園高等学校)が、センター試験で「地理歴史」と「公民」が1教科に統合され、その中から2科目を選択できるように変更する方針についての「産経新聞」(07/07/15付け)の記事を話題にされた。大学入試センターから正式な発表はないが、選択変更の問題は教育現場に混乱を生じさせるので、それを避けるためにも正確な情報が欲しいという要望がだされた。また、これに関連して、教科書に記述されている内容と現実の状況との違いがある場合とか、新しい経済現象についての理解が不正確な場合、経済教育ネットワークが適切な対応をする役割を果たしてもらえれば大変助かるという要望がだされた。

(文責:西村理)